

学校・家庭・地域とのかかわりや人とのつながりを深め、元気ある子どもを育てよう

岐阜市立三輪北小学校PTA 会長 土田 牧也 大橋義耳 藤吉 敏子

1. はじめに

三輪北小学校の歴史は古く、明治5年の学制発布とともに設立され、現在に至っています。大正2年には、348人の児童数でしたが、それをピークに、徐々に世帯数、児童数は減少してきています。

このような状況の中で、PTA活動で大切にしているのが、「人とのつながり」です。当たり前のことですが、より多くの人同士のつながりが、豊かな人間関係を育み、それが子どもの成長を支える基盤となると考えています。

2. 実践

(1) 実践1 子どもと大人をつなぐ場の位置付け

① あいさつ運動(学期はじめ、日曜参観や運動会での実施)

このあいさつ運動は、3年前から実践されています。本年度は学期始めの2回と、日曜参観などで2回、運動会で1回の合計5回実施しました。多いときには、朝から50名近くの保護者の方があいさつ運動に参加してくださいました。



また、このあいさつ運動は運動会の入場でも昨年度より実施しています。まず、保護者や応援にみえた家族が赤白に分かれてトラックに整列し、次に入場してきた児童一人ひとりとハイタッチでエールを送ります。本年度は約150名の方が参加してくださいました。

② 夏祭りへの出店

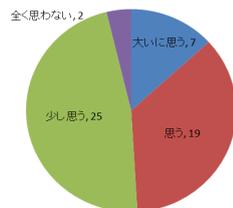
毎年夏休みのお盆過ぎに自治会が主催となって夏祭りが開催されており、PTAからは本年度は4つ出店をしました。ブラピ会(父親有志の会)の「金魚すくい」、学年代表の「玉入れゲーム」、広報委員の「君も釣りキチ三平だ!ゲーム」、成人教育・地域生活委員の「なんちゃってVS嵐」です。どのお店も、子どもが楽しく参加しました。

(2) 実践2 保護者同士をつなぐ場の位置付け

① 父親の有志の会の立ち上げにかかわって(父親の意識調査)

意識調査では、父親有志の会を立ち上げた方がよいのかを聞きました。グラフからも分かるように、父親有志の会の立ち上げには、肯定的な回答が多く、三輪北小PTA活動をより充実させるため父親有志の会の発足が必要とされていることが分かります。

Q1 父親有志の会を立ち上げたほうがよいですか？



② 父親有志の会の実践

父親有志の会の名前はブラピ会です。これは「ブラっと来て、ピッ!とやる。」からブラピ会としました。これは、意識調査にあった父親の願いに「少しの時間なら協力したい。気軽に参加したい。」という声があったからです。

実際の活動では、三輪北小学校のグラウンド

は全面芝生のため、この芝生の管理をしています。例えば日曜参観で雑草を抜いたり、夏休みは、地区毎で散水当番を決めて管理したりしています。これ以外に、夏祭りでの金魚すくいの出店、運動会の準備・片付け、いいいも祭りで行われる焼き芋で使用する薪を山林からとってくる等の活動をしてきました。

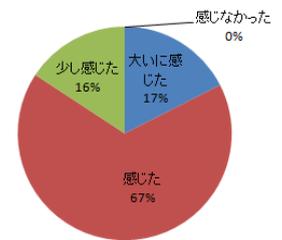


4. 意識調査より

成果と課題を明らかにするために、11月初旬に意識調査を実施しました。

テーマにある「人のかかわり」をどの程度感じたのかを聞きました。多くの方が人とのつながりを感じることができたという回答を得ることができました。きっと子どもと保護者、保護者と保護者がつながることにより安心感が生まれ、このような結果になったのだと考えています。

人とのつながりを感じましたか



5. 成果と課題

○子どもと保護者、保護者と保護者をつなぐ場の位置付けや学校行事とかかわらせたつながりの位置付けにより、日常的に、人とのつながりを意識できる姿を育むことができました。

○豊かな人とのつながりを感じたり、保護者同士がつながったことによる安心感も育めました。

△より多くの保護者をつなぐ手だての模索をしていきたいと考えています。例えば、あいさつ運動は継続することや、立ち上げたブラピ会の活動の活性化するために、各学級で父親の代表を決めて組織化するなど、人のかかわりをこれから大切にしていきたいと考えています。

6. 最後に

人数が少ないから、人とのつながりが多くのなるのが当たり前ですが、その当たり前ができる組織こそ、温かくより豊かな人間関係、子どもを育めると考えています。